

「歴史・文化ゾーン内駐車場管理システム等整備事業」 の概要

1. はじめに

以下のようなケースを考えていただきたいと思います。

(例 1)

F 県 K 市在住の A さんは、同市出身の著名アーティストの絵画展が延岡市の延岡城・内藤記念博物館で開催されるということで、車で延岡市に向かいました。

延岡インターを下り、カーナビを頼りに博物館に向かいましたが、その日は雨で、視界が良くない上、「この近くかな?」と思ったあたりに「満車」というプラカードを持った、レインコートを着た駐車場誘導員が 2 人道路沿いに立っていました。

「満車ならどこに停めれば良いんですか?」と誘導員に聞こうにも、反対側車線を走っているため、聞くこともできず、後続車に追い立てられながら車を走らせ、目的地からどんどん遠ざかってしまっています。

(例 2)

ある日曜日、延岡市民の B さんは、午前 10 時 30 分からカルチャープラザのべおかで開催される講演会に参加するため、車で会場に向かっています。

時刻は 10 時 20 分。もうすぐ始まります。社会教育センター正面やカルチャープラザ地下の駐車場は、どうせ満車だと考え、B さんは一気にカルチャープラザ裏（南側）の大駐車場に向かいましたが、なんとそこは満車でした。

あと 10 分しか時間はありませんが、B さんはどこに車を停めればよいか分からず、また、後ろから車も来ているので、とにかく車を前進させていますが、周囲は住宅ばかりでバックして戻ることもできません。一体どこに駐車すればよいか分からないまま B さんは焦りつつ車を前進させていますが、目的地からどんどん遠ざかってしまっています。

(例 3)

ある冬の日の夕方、宮崎市民の C さんは、延岡の野口遵記念館で行われる著名アーティストのコンサートに行くため、車で延岡市に来ました。

延岡インターを下り、カーナビを頼りに野口遵記念館に行きましたが、駐車場は満車。さすがは著名アーティストのコンサート、市役所前の駐車場も満車のようです。

周囲は薄暗くてよく見えませんし、後から車が来ているので、とにかく車を前進させるしかありませんが、延岡に不慣れな C さんは、今、自分がどこにいるかすら分からなくなってしまうました。

2. 事業の目的

現在、市役所から野口遵記念館、城山、延岡城・内藤記念博物館周辺のエリアを含めた歴史・文化ゾーンには、駐車場が複数箇所に点在し、市内外から来られる方にとって、駐車場の位置や満車・空車の状況が分かりづらい状況になっています。

今後、アフターコロナで各種イベントなどが本格的に再開され、これまで以上に多くの方が来られる事になりますが、「どこに駐車場があるのか」「どの駐車場が空いているのか」を現地に着く前に分かるようにしなければ、大変不便な上、周囲の交通にも支障をきたします。さらに、今年の秋に城山公園北駐車場に「コメダ珈琲」（来客数年間 99,000 人見込み）がオープンすることも考える必要があります。

そのため、カーナビゲーションやスマートフォン（インターネット）により「どこに駐車場があるのか」「どの駐車場が空いているのか」を現地に着く前に分かるよう、案内・情報発信することは、最低限の行政サービスであり、それが出来ていないことは、市民の皆様にとっても、市外から来られる方々に対しても極めて不親切な状況であります。この状況により生じる周辺道路での渋滞・混雑・混乱の問題を未然に抑えるためにも、その対策は急務ではないでしょうか？

市ではこれらの問題を解決するために、歴史・文化ゾーン内の市管理の駐車場を一元的に管理する中で、駐車場の満車・空車の情報を表示板や市のホームページ、カーナビゲーションでタイムリーに広く発信し、スムーズな駐車場誘導を行う駐車場管理システムを整備する必要があると考えています。

3. 事業の主な変更内容

令和4年5月に実施した1回目のパブリックコメントとの変更については以下のとおりです。

番号	項目	前回パブリックコメント	今回提案(変更後)	備考
1	駐車場管理システムの対象する駐車場	14 箇所	12 箇所	第5駐車場(図書館東)、第8駐車場(旧 NTT 社宅跡)を対象外
2	広域満空表示看板	7 基	0 基	必要性が高まったことが確認できた段階で、再度検討
3	個別満空表示看板	17 基	9 基	駐車台数が20台以上の駐車場のみに整備
4	システム・看板等整備費	314,875 千円	160,356 千円	154,519 千円削減

4. 財政支出削減のためにもこの事業は必要です。

この事業を実施しない場合は、主な駐車場に誘導員を配置して、マンパワーによる誘導の案内をずっと行い続けなければなりません。

そのためには、14箇所の駐車場（資料2参照）に最大で合計18人の誘導員を配置する必要がありますが、この経費は年間約93,000千円と見込まれます。（なお、誘導員の配置人数については、混雑状況に合わせた急な雇用調整が難しいことから、常にフルスペックの状況を維持した状態を想定する必要があります。）

一方、駐車場管理システムを整備すれば、最初に整備費として約160,356千円程度の費用（6.（4）システム・看板等整備費（見込額）参照）が必要とはなりますが、整備後はシステム運用費と電気代を合わせて毎年約6,264千円程度の費用しかかかりません（6.（5）システム運用費試算（見込額）及び6.（6）年間電気料（概算）参照）。入念な対応をするために誘導員を配置するとしても（2人配置）、その経費は毎年約10,708千円と見込まれ、合計でも16,972千円に抑えることができます。

1年間にかかる93,000千円と16,972千円の差は76,028千円ですが、現在のままの状態を仮に3年続くとすると76,028千円×3年=228,084千円と3年後には、システム整備費見込額160,356千円を上回りますので、システムを整備しなければ、その後も市は支出しなくても良いはずの支出をずっとし続けることになってしまいます。

5. 「延岡城・内藤記念博物館」は、かつての「内藤記念館」とは全く異なる施設です。

かつての「内藤記念館」と異なり、「延岡城・内藤記念博物館」は延岡市にとって初めての博物館法に基づく博物館で、しかも、いわゆる「古いもの」だけを展示するのではなく、絵画や現代アート展、科学展（例えば「空飛ぶクルマ」を体験できるシミュレーター展示など）なども開催できます。

しかも、国の文化庁の指導を受け、国宝や重要文化財といった、展示物に劣化が許されない超一級品の文化財を安心して展示できる施設（国の公開承認施設）の基準を満たした施設として整備されました。

今まで直に見ることもできなかったもの、体験できなかったこと、さらに全国の方にとっても非常に魅力的な展示などができる施設なのです。

加えて、博物館来館者の方々は「コメダ珈琲」でくつろいでいただくことも可能になります。（年間99,000人の来客が見込まれています。）

なお、国の公開承認施設はこれまで県内に1箇所しかなく（隣の大分県でも1箇所のみ）、延岡城・内藤記念博物館は県内で2箇所目、県北初の国の公開承認施設を目指して整備してきたところです。

6. 事業の具体的内容

(1) 駐車場管理システムの対象とする駐車場

番号	名称	駐車台数
①	延岡城・内藤記念博物館 正面駐車場	22台
②	延岡城・内藤記念博物館 北側駐車場（整備予定）	10台（見込）
③	第6駐車場（旧警察官舎跡）	14台
④	カルチャープラザのべおか 第1地上駐車場	46台
⑤	カルチャープラザのべおか 第1地下駐車場	40台
⑥	カルチャープラザのべおか 第2駐車場	17台
⑦	カルチャープラザのべおか 第3駐車場	34台
⑧	カルチャープラザのべおか 大駐車場	100台
⑨	延岡城跡城山公園 北駐車場	53台（現時点）
⑩	延岡城跡城山公園 南駐車場	102台
⑪	野口遵記念館駐車場（延岡市役所 第2駐車場）	246台
⑫	延岡市役所 第1駐車場	81台
	計	765台（見込）

※令和4年5月に実施した1回目のパブリックコメントでは、他に図書館東駐車場（現：第5駐車場）、旧NTT社宅跡駐車場（現：第8駐車場）の2箇所も含めておりましたが、

- ・第5駐車場は使用可能台数が6台と少なく整備効果が薄いこと。
- ・第8駐車場については、住宅密集地の中の細い道路を通っていく駐車場なので、他の周辺駐車場が全て満車になるような場合に、最後に案内する駐車場として現在運用していること、
また、駐車場までの道路が車同士の離合が不可能な道幅であり、案内する際は事故防止のため、誘導員を道路の入口と駐車場の入口の2箇所に配置が必要であり、その際、道路入口側の誘導員で満車・空車の案内が可能なこと、
以上の理由で見直しを行い、整備対象から除外しております。

(2) システム構成

各駐車場に設置するカメラにより、満車・空車を判断し、その結果を管理サーバーに配信し、個別満空表示看板や市のホームページ（以下、市HP）、カーナビゲーションに表示します。

(3) 主な設置機器概要 (資料2参照)

① 満空状況判断用カメラ (12 駐車場 設置見込数 39 台※)

※採用する機器により設置数は変更する可能性があります。

○駐車場敷地内または駐車場敷地外から、駐車場の画像を撮影し、満車・空車の判定を行います。(※目標耐用年数は10年程度とします。なお、他自治体等の同様の機器の管理状況においても10年程度の使用を見込んでいます。)

② 個別満空表示看板 (10 駐車場 設置予定数 9 基)

○主な駐車場敷地内(出入口付近)に設置し、満車・空車を明示する看板です。

※第6駐車場、カルチャープラザ第2駐車場については、駐車台数が20台未満と少なく、また路上から容易に確認できることから、市HPやカーナビゲーションで情報提供を行う予定です。

※カルチャープラザ第1地上・地下駐車場については、第1地上駐車場の出入口に表示看板1基を設置し、両方の情報を表示する予定です。

※延岡城・内藤記念博物館の正面・北側の各駐車場2箇所については、上り口付近(北側駐車場手前)に表示看板を1基設置し、両方の情報を表示する予定です。

※野口遵記念館駐車場は、北側2箇所の入口にそれぞれ設置する予定です。



【看板イメージ】

(4) システム・看板等整備費 (見込額)

○システム構築費用

(カメラ等機器調達、工事全般監理含む) 69,124 千円

○個別満空表示看板製作費用 41,635 千円

○個別満空表示看板設置工事 6,424 千円

○カメラ等設置・電気配線等工事 33,173 千円

○OVICS 連携 (カーナビゲーションへの表示)

に係るサーバー改修費用負担金 10,000 千円

160,356 千円

※令和4年5月に実施した1回目のパブリックコメントでは、広域満空表示看板(路上に設置し複数の駐車場の満空表示を行う大型表示看板)7基分の費用も計上しておりましたが、これまでの議会での質疑等を踏まえ、昨年度の3月議会より、事業から除外することとしています。

今後、必要性が高まったことが確認できた段階で、再度検討を行いますが、まずはカーナビやスマートフォン等(インターネット)での満車・空車情報の配信を急ぎたいと考えています。

(5) システム運用費試算（見込額）

年間経費

サービス利用料	2,911 千円
制御システムサーバー費用	208 千円
モバイル通信費	957 千円
	<hr/>
	≒4,080 千円

※ 10年間の運用費見込額 40,800,000 円

(6) 年間電気料（概算）

2,184,000 円（182,000 円/月）

※ 10年間の電気料見込額 21,840,000 円

- ※ 1. これらの整備は入札を行う予定ですので、入札による企業間の競争等により、上記の金額よりも低い金額で契約・発注できることが期待されます。
- ※ 2. 本資料の金額は物価上昇もある程度見込んだうえでの金額となりますが、今後、資材単価・人件費等の変動により、変わることがあります。
- ※ 3. また、財源については、元利償還の際に国の財政支援が得られる事業債（例えば地域活性化事業債（元利償還金の30%が交付税によって国の財政支援を得られる））の活用を考えています。

6. 駐車場台数について

これまで、不足する駐車場台数を確保するために、立体駐車場の整備を含めた駐車場整備の検討を行ったところ、野口遵記念館から延岡城・内藤記念博物館の周辺は、景観形成重点地区であり立体駐車場の整備は出来ませんでした。少しでも多く確保できるように新規駐車場を整備してきました。

そのような中、日本観光協会の手法を使って、延岡城・内藤記念博物館、図書館、カルチャープラザ及び社会教育センターのエリア（カルチャーゾーン）周辺の必要駐車場を算出（令和4年度の来館者数はコロナ禍により、令和元年度に比べ、約10万人減少しており、コロナが収束すれば以前の水準に戻ることは明らかであることから、令和元年度の来館者数等から算出）すると、今後整備される駐車場の見込み台数を含めても74台不足することが判明しております。（「コメダ珈琲」の来客者数を勘案しない段階での数字です。）

延岡城・内藤記念博物館のオープンする前のコロナ禍がなかった時には、平日でも駐車場が足りない状態が起こっており、駐車場不足を解消するためには、市役所周辺も含めた歴史・文化ゾーン全体の駐車場を組み合わせ誘導していく仕組み（システム）環境づくりが急務であります。

【積算根拠】※観光計画の手法（（社）日本観光協会）の手法から算出

① カルチャーゾーンの必要駐車場台数

カルチャーゾーン施設の来館者数

施設名	年間来館者数	備考
カルチャープラザ、社会教育センター	82,245	R元年度実績
図書館	312,722	R元年度実績
延岡城・内藤記念博物館	50,000	他の人口同規模程度の市の博物館の入館者数を踏まえた見込値 (R4年度実績：35,507※) ※9/23開館だった為、半分程度の数字
合計(人)	444,967	

来館者数をもとに、1日の利用者の最大人数や施設の滞在時間（1台につき1時間滞在を仮定）、駐車場の利用率等を勘案し算定される必要駐車場台数は436台となります。

② カルチャーゾーンの駐車場台数（令和5年5月時点）

駐車場名	台数	駐車場名	台数
第1駐車場（地上）	46	第7駐車場	14
第1駐車場（地下）	40	第8駐車場	59
第2駐車場	17	博物館正面駐車場	22
第3駐車場	34	博物館北駐車場（整備中）	10
第5駐車場	6	大駐車場	100
第6駐車場	14	合計(台)	362

③ 算定結果

$$\begin{aligned} & (\text{必要駐車場台数}) - (\text{カルチャーゾーンの駐車場台数}) = (\text{不足台数}) \\ & 436 \text{ 台} - 362 \text{ 台} = 74 \text{ 台不足} \end{aligned}$$

※ これまで不足台数は88台となっていました。その後、駐車場台数を増やすことができたため、現時点では74台不足となっています。

※ この数には「コメダ珈琲」の来客者数（年間99,000人の見込み）を勘案していませんので、実際には駐車場不足数はもっと大きくなると見込まれます。

【参考】カルチャーゾーン内駐車場の利用実績

集計期間 令和4年9月23日～令和5年3月31日（このうち稼働日数162日間）

駐車場名	期間中 利用数	日平均 利用数	駐車場名	期間中 利用数	日平均 利用数
第1駐車場(地上・地下共)	39,646	248	第8駐車場	580	4
第2駐車場	2,688	17	大駐車場	19,011	118
第3駐車場	3,323	21	博物館正面駐車場	4,482	28
第6駐車場	136	1	合計(台)	69,866	432

※駐車場誘導員を配置している駐車場を対象としています。